

# ネットで方言は生まれるのか。

相馬 光 23B11715  
東京工業大学工学院

## 1. はじめに

### メインリサーチクエスチョン： ネットで方言は生まれるのか。

やる事：インターネットの登場が方言にどのような影響を及ぼしているのかを確かめる。

## 2. 方法

インターネットが一般社会に普及したより後、およそ2000年より後に発表された資料を参考に、インターネット上で新たに生まれた方言について調査する。

## 3. 結果

資料を当たる中で、「方言コスプレ」という物が存在する事が分かった。(田中ゆかり(2011)) 「方言コスプレ」は「その方言の話者ではないのにその方言を用いる事」、また「ニセ方言」を「方言コスプレの際に用いられる方言の語そのもの、ただしこれは本来の方言で用いられるわけではない」を指す。ここに「方言コスプレ」を新たな方言であると解釈し、追加でその浸透具合の程度を調べる事にしてさらに資料を当たると、以下のような表(表1)(要約)が見つかった。(萩野綱男(2014))大まかな傾向として、「関西圏のニセ方言は数が多いものの、特定のものを除いて割合が小さい」「地方圏の方言は登場数は少ないものの、殆どがニセ方言である」事が読み取れる。

表1: ブログ内に見られる「方言コスプレ」の具体的な語とその割合

具体的なニセ方言	その語が使用された件数	方言使用全体に対する割合
関西「やん」	384000	0.32
関西「ねんでやねん」	490000	0.80
東北「だべ」	37260	1.00
東北「っべか」	230	0.46
九州「でござす」	16200	0.90
中国「じゃけん」	3640	0.48

## 4. 考察

インターネット上で個人が自由に文章を発表できるようになった事で、個々人のそのままの言語使用が表れるようになった。特にブログの文化が浸透した事により、方言がより強く出る話し言葉での文章が多く見られるようになった。これにマスメディアを通じて広まった、方言自体に価値を見出して楽しむ「方言コスプレ」の文化が合流し、ネット上での個人的な言語使用に方言コスプレが混ざるようになったと私は考える。

またニセ方言の割合の傾向に関しては、マスメディアが方言コスプレの文化に合流した際にそれを構成していた人の使う方言がそのまま影響していると考えた。マスメディア自体、特に話し言葉を用いるテレビやラジオの放送文化が形成され始めた1920~50年代当初はもちろんインターネットが普及しておらず、人間も地域毎に固まって生活していた。そのためにマスメディアを構成する人員も文化中心地である関東や関西の人が多く、その人たちの話す関東圏や関西圏の言葉は忠実に文化化されていると考える。反面成立当初にあまり関わらなかった地方圏の方言は、あまり実際の方言に忠実に再現されず、誤った形(ニセ方言)で文化化されてしまったのではないかと考えた。

## 5. おわりに

完全に「新たに作られた方言」と言い切る事は出来なかったが、ネットの力によって新たな方言の種類が生まれる事がわかった。確かに「方言の流行語」や「方言女子」など、方言をコンテンツとして楽しむ文化が形成されている事は知って居たが、それが実際に使われている方言かどうかは考えた事が無かった。正しい/間違いではなく、新たな方言として捉える研究アプローチは興味深いと思った。

文献:

田中ゆかり <2011> 「方言コスプレ」の時代-ニセ関西弁から龍馬語まで 岩波書店刊

萩野綱男 <2014> ウェブ検索による日本語研究 朝倉書店 p173~175

[https://doi.org/10.20666/nihongonokenkyu.11.1\\_36](https://doi.org/10.20666/nihongonokenkyu.11.1_36)